

ヨハネ 14 章 1-11 節 「道、真理、命」

どんな人でも先が全く見えないと不安を感じるものです。そんな時、私たちは自分の力で解決しようとしめます。でも、それでは解決することができません。でもイエス様は言いました。「心を騒がせるな。神を信じなさい。そしてわたしをも信じなさい(1)」と。「心を騒がせるな」とは、このヨハネの福音書の中で何回も使われてきた言葉です。私たちが心を騒がせる時というのは、そこに悪魔の力が働いているということを覚えておく必要があります。悪魔の力が働いている時こそ、「神を信じ、わたしを信じなさい」とイエス様は伝えたのです。自分一人でその問題に立ち向かうのではなく、主なる神さまが私たちに代わって戦ってくださいと信じなさい。そうすれば、主の平安が与えられるというのです。けれども残念ながら、私たちの信仰は、そんなに強くありません。イエス様を信じていない人と全く変わらない状態になってしまう時もあります。

では、どうやって神を信じ、イエスを信じるなら不安や恐れが消え去るのでしょうか。その答えが 2 節です。「わたしの父の家」とは神の国、天国のこと。イエス様は、場所を用意するために、自分が天国に行かれると言われたのです。この世という視点で見るのではなく、この世を越えた視点、天国という視点で見ることによって、また時間を越えた永遠という視点で見ることによって、今まで問題だと思っていたことが、全くそうでなくなるだろう、というのです。

イエス様は、このようにご自分がどこに行かれるのかを、繰り返して弟子たちに語って来ました。ですが、弟子のトマスは、イエス様に「私たちにはわからない。」と伝えたのです。ヨハネ 20 章に出てくる、復活のイエスの手の釘跡とわき腹に手を入れなければ信じない、と言ったトマスです。疑い深い人です。でも、私たちも疑い深いはず。見ないと信じることはできません。見ても信じない人もいます。ですから、トマスは私たちの姿そのものののです。そこで、イエス様はその道が何であるのかをはっきりと示されました。

「わたしは道であり、真理であり、いのちである。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない(6)」。土の神さまを信じて一緒にいるという考えを否定され、はっきりと、ご自分が道であり、真理であり、いのちであること、そして、ご自分を通してでなければ、だれも父のもとに行くことはできないと言われました。つまり、イエス・キリストは神であられるということです。ですから、父なる神のみもと、神の国、天国に行こうと思うなら、この神が定めた方法でなければ行くことはできない。その方法とは、イエス・キリストの十字架と復活を信じることでした。イエス様とともにその道を歩む、そうすれば、あなたも天国の視点で物事を見ることができるようになり、すべての不安と恐れは消え去るというのです。

懐疑的で、自分の目で見なければ信じないという人たちは、たくさんいます。でも、イエス様を見る人は、父を見るのです。イエス様こそ、道であり、真理であり、いのちです。天国に至る唯一の道なのです。この方を信じるなら、何も恐れたり、心配したりすることはいりません。「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。」と言われる主イエスに信頼し、先が見えないこの不透明な時代にあっても、天から与えられる平安をもってこの地上の生涯を歩ませていただきたいと思います。